

○経緯

基本的な方向

H18～H20  
「競技力向上対策あり方検討会(座長:南トナミ運輸会長)」

競技力向上対策推進

- H21 県スポーツアドバイザー委嘱(福田富昭JOC副会長)  
「トップアスリート育成・強化プロジェクト会議(会長:新木北電会長)」
- H22 県民スポーツ応援団設立・県体育協会の組織見直し
- H23 県総合体育センターの中核強化拠点化(県体協指定管理・事務局移転)  
県民スポーツ応援団トップアスリート支援
- H26 TOYAMAアスリートマルチサポート(スポーツ医・科学的サポートの拡充)
- H27 スーパートレーナー設置
- H28 国体新女子種目等強化  
ジュニアアスリート育成サポート

2020東京オリンピック選手育成強化事業

2020年東京オリンピックに向けた選手強化を目的に、平成28年の第71回国民体育大会(希望郷いわて国体)から新たに採用されるオリンピック女子種目等において、活躍が期待される人材の発掘及び育成に努めるとともに、強化を図る。

対象競技

男女:オープンウォーター、トライアスロン

女子:ボクシング、レスリング、ウエイトリフティング、自転車競技、ラグビーフットボール

※岩手国体では、女子レスリング(第5位)、女子ウエイトリフティング(クリーン&ジャーク第4位、スナッチ第7位)で入賞



トップアスリート育成・強化プロジェクト会議の提言を踏まえた競技力向上対策

I 強化施策の再構築

一貫指導体制の推進・重点強化

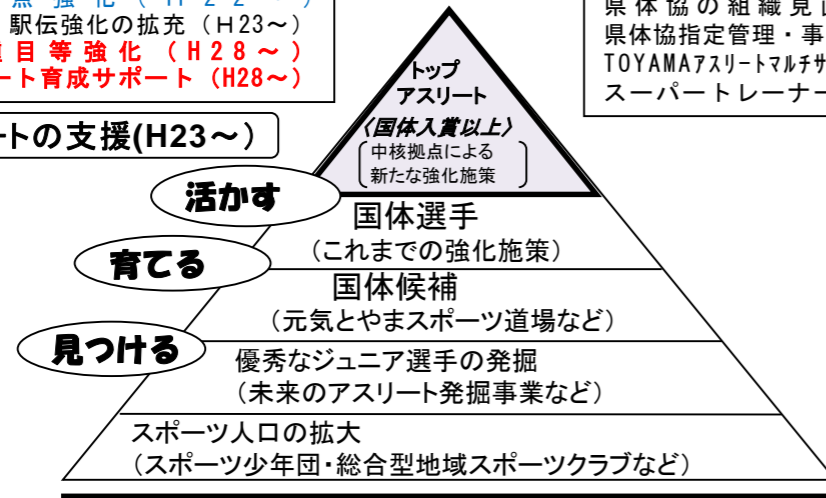
- 未来のアスリート発掘(H17～)
- 元気とやまスポーツ道場開催(H18～)
- 運動部スーパースターコーチ派遣(H18～)
- 少年重点強化(H21～)
- 合宿遠征重点強化(H22～)
- サッカー・野球・駅伝強化の拡充(H23～)
- 国体新女子種目等強化(H28～)
- ジュニアアスリート育成サポート(H28～)

II 強化拠点の再整備

中核拠点(県総合体育センター)の確立

- スポーツ医・科学的サポート充実(H22～)
- トップアスリート育成(H22～)
- 県体協の組織見直し(H22～)
- 県体協指定管理・事務局移転(H23～)
- TOYAMAアスリートマルチサポート(H26～)
- スーパートレーナー設置(H27～)

トップアスリートの支援(H23～)



III 応援体制の再整備

新たな支援の仕組みづくり

富山県民スポーツ応援団設立(H22～) ← 募金

元気とやまスポーツ応援基金の創設 ← 募金

障害者スポーツ全国・国際大会出場支援(H4～)  
障害者スポーツアスリート応援(H26～)  
(統合新規)

世界を目指す障害者スポーツアスリート応援事業(H29～)

東京オリンピックを目指すジュニアアスリート育成サポート事業

本県の年代別日本代表選手(中学生～大学生)が、国際レベルの試合経験を積み重ねることにより、全国や世界の檜舞台で活躍できるよう育成・強化を図る。

H28実績:年代別日本代表として本県から延べ35人が26の国際大会に参加。  
11大会19人に対し助成(6競技 1,396千円)



競技・種目	派遣人数	助成人数	
陸上(競歩)	2		
水泳	シンクロ	1	
	水球	2	2
	競泳	1	
	オープンウォーター	1	
ホッケー	10	10	
体操	2		
ボクシング	1		
セーリング	2	2	
ウエイトリフティング	1		
ハンドボール	6	1	
フェンシング	3	2	
カヌー(スプリント)	2	2	
空手	1		
合計	35	19	

※延べ人数で記載

※その他の海外派遣実績  
スキー(クロスカントリー1名) 相撲(2名)